

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立川之江高等学校(全日制・定時制)
学校番号(1)

評価実施日		令和 5年 2月 16日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	川崎 奈見	川之江高等学校PTA会長	
	石村 美恵	川之江高等学校PTA役員	
	矢野 和孝	川之江高等学校定時制教育振興会会長	
	森実 直人	四国中央市立川之江北中学校長	
	瀬戸丸 尚正	四国中央市立川之江南中学校長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>【全日制】</p> <p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校生活全般</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケートにおいて、「川高に入学して良かった」が高い数値で安心した。それ以上に先生方の「川高に勤務して良かった」の数値が高く、それが子どもたちの満足度に繋がっていると思った。 <p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・自習室や学習用のフリースペースを設けてくれており、先生方の熱心な指導に感謝している。・生徒たちが落ち着いて授業を受けており、先生たちとの距離も近く安心した。・自己評価表の結果から、「家庭学習時間」が少ないのが深刻であるが、これは中学校でも最大の課題である。・小学校の低学年くらいになれば最低限の提出物、学習はやらさないといけない。そこからの積み重ねがあつて中・高となるのではないかと思う。自分にはチャンスがあるということをも今の川高では気付かせてくれていると思う。 <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度はコロナの関係で、オープンキャンパスにもぎりぎりしか行けなかった。もっとたくさん行くことができれば良かったと残念であった。・大学、専門学校、就職、どれに関しても親の声掛けが大切である。「目標を持って大学へ行け」逆に、「目標がないのであれば大学へ行け」という親もいる。目的がなくても大学へ行って目標を見つければいいのではないかと思う。 <p>(4) 部活動</p> <ul style="list-style-type: none">・部活動が活発に実施されており、ありがたい。部活動での経験は、社会性、学力など様々な場面に影響してくると思う。今後も更に活発に活動を続けてほしい。	<p>・先生方は日々多忙な中、生徒たちの学習指導、生徒指導に、自信を持って取り組まれている。今後ともワークライフバランスのとれた、働きやすい職場環境作りに努める。</p> <p>・今後も各教科、各先生方に個に応じたこまめな学習指導の徹底をお願いする。</p> <p>・今後も適切な学習課題の指示と、こまめな家庭学習調査の実施などにより、学習習慣の定着と家庭学習時間の増加を図りたい。</p> <p>・今後もホームルーム活動や各授業の中で、学習や大学進学の意味や、将来の生き方などについて生徒たちの気付きにつながるような話を各先生方をお願いする。</p> <p>・ホームルーム活動や各授業の中で、学習の意味、大学進学の意味などについての適切なアドバイスを各先生方をお願いする。</p> <p>・マニフェストにも部活動加入率80%以上という目標を掲げ、部活動の活発な実施を推奨している。今後とも文武両道の達成を目指して、活発な活動を各先生方をお願いする。</p>

(5) 学校行事

・今の3年生は入学直後緊急事態宣言となり、マスクの下を友人、先生方が知らない状態で過ごしてきた。学校行事も諦めていたが、体育祭では保護者の入場があり、文化祭もよい体験ができてよかった、という保護者の声が多かった。

・今年度は、生徒たちにも多くの我慢をお願いしたが、少しでも生徒たち、保護者たちの思い出に残るような実施方法を先生方が考えてくれた。今後も生徒たちのために、色々な方々に知恵を出してもらい、より良い方法を考えたい。

2 生徒募集について

・先日の川高野球部主催の野球教室に参加した地域の野球少年が多くいたが、色々な体験を通して将来川高に入学したいと強く思わせるようにすることが一番大切。パンフレットだけでなく、実体験をさせることは大変大きいことであり、今後そのような機会をもっと持てば良いのではないか。
・川之江北中学校卒業生の約半数が川高に進学しているが、国公立大学を希望する生徒が川高以外へ進学するのが残念である。先生方もよく努力してくれていると思うが、もっと川高の魅力を伝えてほしい。ボランティアをよくする子が川高を希望している。そのような子を更に育ててほしい。

・今年度も、生徒・教員、管理職などにより市内、近隣の県外・市外の中学校で本校の説明会を行ったり、川之江北、南両中学校への本校生徒による体験発表会を行うなど、様々な方法で本校の魅力発信を行った。先生方は自信と誇りを持って大変熱心に様々な教育活動に取り組みされている。今後も、色々な方々により良い方法を教えていただき、本校の魅力を伝えたい。

【定時制】

・定時制に通う生徒は、臆病であったり、怖がりであったりする生徒が多いと思う。時間をかけて、見守っていくことが必要だと思う。定時制での高校生活が、後々生きてくる経験になるはずなのでしっかりと見守ってほしい。
・各中学校とも不登校の生徒への対応が課題である。川之江高校定時制へは目標を持って頑張ろうとする生徒が希望して行っている。今後もこのような生徒への支援をお願いしたい。
・アルバイトに来てくれた生徒が一人おり、成績を見せてくれた。その生徒が、「定時制に通い出して、学校に行きたいという意欲が湧いてきた。中学時代は何だったのか、と今考えると。と思う。」という率直な気持ちを述べていた。生徒の学力に合った授業が展開され、生徒の実態に合った学校運営ができているように感じる。

・長い目で見た、生徒一人一人の特性に応じた指導を継続して行っていきたい。

・受容的な態度で接することを心掛け、生徒が受け入れられているという実感の持てる学校環境を維持し、生徒の頑張りを認めることのできる雰囲気作りを一層進めたい。そのために学校行事などにおいて生徒の意見を取り入れながら、生徒主体の活動ができるようにしたい。